

2015.6

vol. 106

改訂版 vol. 36

女性委員会だより

らくだ



公益社団法人 岐阜県建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

〈電話〉(058) 215-9361 〈FAX〉(058) 215-9367



はじめに

委員長 宇佐美 泉

皆さんこんにちは。昨年度に引き続き委員長をさせていただきますことになりました、宇佐美 泉です。平成24年度からですから4年目となります、どうぞよろしくお願いたします。

当委員会は皆さんもご承知の通り、平成元年より活動を始め今年で27年目に入りました。これまで、県内の公共施設のバリアフリーの調査や、住育として小学校への出前講座等の活動をしてきましたが、これから何を軸にして活動していけばいいのか実際のところ思案しています。現状では、2か月毎に委員会を開き、それと研修会や講師を招いて勉強会や、建物見学会。たまには、見学を兼ねて食事会等を開催しています。でも、委員会の会員数が増えない(実際に活動していただける方が固定化)ための活動のマンネリ化、委員の高齢化(決していけないことではないですが、若い方が遠慮してしまう、又はいつまでも頼ってしまう)など、私たちだけでなく、東海北陸ブロック(6県)のどの県でも言えることですが、問題があります。現在、会員数は28名ですが、一人でも多くの方に委員会に入っただき、何か新しい活動をすることが必要なのかと思っています。委員の皆さんも、お知り合いの方に建築士会に入って、女性委員会で活動しませんかとお誘いください。はじめの挨拶ということでしたが、皆さんへお願いする話になってしまいましたが、今年も健康で、楽しく活動をしていきましょう。皆さんよろしくお願いたします。



今回の記事

◇はじめに

◇今回の記事

◇今後の予定・お知らせ

◇第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」
日時:平成25年10月24日(金)

◇第34回建築文化講演会
日時 平成26年11月8日(土)

◇『株式会社 水生活製作所工場』見学・研修
日時:平成26年10月13日(木)

◇第4回女性委員会&新年会
日時:平成27年1月29日(木)

◇平成26年度第24回全国女性建築士連絡協議会
日時:平成27年2月27日(金)~28日(土)

◇建築士会 東海北陸ブロック会 女性建築士協議会
平成26年度後期定例会議 となみ大会
日時:平成27年3月14日(土)~15日(日)

◇第14回 気楽にらくだ会
「美濃保育園見学と美濃和紙を学ぶ」
日時:平成27年3月28日(土)

◇平成26年度 女性委員会総会
日時:平成27年5月14日(木)

◇編集後記



今後の予定・お知らせ

◆ 東海北陸ブロック女性建築士協議会前期定例会議
三重県伊勢市 日の出旅館
平成27年 6月20日(土)

◆ 全第58回建築士会全国大会石川大会
石川県金沢市 平成27年10月30日(金)



第57回建築士会全国大

「ふくしま大会」

第57回 建築士会全国大会

ふくしま大会に参加して

報告者：下川 滝美

日時：平成25年10月24日（金）

会場：ビックパレットふくしま

（福島県郡山市南2丁目52）

参加者：2名

大会テーマ

建築士の決断「ならぬことは ならぬものです」

～ふくしまで語ろう 建築・絆・再生～

地域交流見学会（エクスカーション）

Aコース みちのく路紅葉と二本松少年隊

Bコース 紅葉と皇室ゆかりの地

Cコース 会津西街道を行く～大内宿周遊・会津若松市～

Dコース 戊辰戦争の遺構をめぐる旅

Eコース 蔵のまち喜多方を歩く旅

Fコース 国宝白水阿弥陀堂とフラダンスショー

Gコース 会津街道と紅葉の裏磐梯・スカイラインの旅



今回のふくしま大会は、娘と二人で参加させてもらいました。

東京で乗り換え郡山までは新幹線で、郡山の駅からはシャトルバスが出ており震災当時、多くの方が避難された今回の会場であるビックパレットへと向かいました。

交流セッションは9時からの開始でしたが当日朝一での出発で会場に入ったのは11時でした。

既に青年委員会「現在の被災状況」女性委員会「安全なくらし」まちづくり委員会「防災の諸課題」の担当発表は済んでおり初めての試みという3委員会合同パネルディスカッションからの参加となりました。

■交流セッション①

9：00～12：15

テーマ 防災・減災・まちづくり

ディスカッションの内容は、「被災からの復興とコミュニティの再生」

3委員会合同で何が出来るのか？

建築士として震災直後にどのような活動をしてきたか？

士会として、また委員会として個人として活動をするにあたり様々な葛藤や苦労があったという話も聞くことができました。

青年委員会の話として福島は原発があるために震災当初に行った応急危険度判定、現在では除染活動の監督業務を担っている。

仮設住宅の復興住宅に携わる中で、復興のために短い時間での設計であり住民の意見が反映されにくいことへの苛立ちも感じておられるようでした。

今後は建築士会の会員同士、青年員会では足りない部分を建築士会内でコミュニケーションをとり強化していきたい。建築士会に頼めば安心だということを知ってもらいたい。

テーマは「社会貢献」だとまとめられました。

女性委員会の活動としては私たちも知っているように震災に関する活動を震災直後からはじめていました。

直後の視察、全建女での震災の現状報告の継続など他の委員会とは違った活動をしてきました。

千葉県建築士会女性委員会の資料「地震いつもの備え」<http://rady-ac.moo.jp/>

福島県建築士会女性委員会の資料「考えよう！明日を担う子供達のための住まいづくり」は両者共、女性ならではの考えで作成されたもので特別なことでなく毎日の生活をしながらできることを考えられておりとても参考になります。

まちづくり委員会は、阪神大震災以来とりくんできたが3.11以来は毎年取り組んでいるまちづくり会議。茨城大会では震災の現状を聞いてきた。今後も全国のまちづくりを支援していき「防災のまちづくり」に取り組みたい。一方で被災した文化財のように価値ある建築も解体する方向に進んでいることについて建物が可哀想だとも言われ同じ思いをしました。まとめとして3委員会合同で何ができるのか？ということに関してはそれぞれの活動はあまりにも違っているが、それぞれの活動に役割があり今までお互いの情報交換ができていなかった。

今回合同でやることでお互いの活動を知ることができたことは大きな収穫です。

それぞれの委員会がある意味がわかり、連携をとりネットワークを組むことが今後期待されるということで締めくくりされました。

高齢の方が住んでおられ時々散歩などをしておられました。

まだ不自由な生活をされている方がいるのですね。



(お弁当の写真。美味しかったです。)



(会場周辺の様子)



■情報発信セッション

こちらでは震災の時の写真や学生の設計の展示などを
見て回りました。

「東日本大震災記憶と未来いわて・みやぎ・ふくしま」

黄色い法被を着た福島県建築士会の方が語り部として説明をしてくださいました。



■昼食・物産コーナー

恒例の大会弁当の写真です。

物産コーナーでは喜多方ラーメンや地酒の試飲コーナーなど

賑わっていました。天気もよく暖かかったのでお弁当は屋外で
食べました。

お弁当を食べた向かいには仮設住宅が並んでいました。

■大会式典

15:00~17:00

オープニングアトラクションは「フラガールによるフラダンスショー」

です。今回一番楽しみにしていたものでした。

フラガールの方々の笑顔に東北の方の力強さを感じました。

大きな力になったと思います。

来年は東海北陸ブロックから石川県での開催です。

2015年10月30日(金)第58回建築士会全国大会石川大会



福島県の方の説明で毎回出てくるのが福島県は、浜通り、中通り、会津から成り立っており同じ福島県でもこの3つの地方では気候も文化も違うということを知りました。

震災の影響もずいぶん違っていました。

それぞれの地域が震災後に協力をして復興に取り組んでいることをエキスカージョンに参加させていただき感じました。



エキスカージョンは三井所会長も同じコースに参加されて福島の良い所をいっぱい伝えていただきました。

普段は控えめな県民性だと言われる福島の方でしたがとても熱心に説明をしていただき福島の魅力をたくさん教えていただけました。福島建築士会の皆様ありがとうございました。

第57回 建築士会全国大会

ふくしま大会に参加して

報告者：下川 綾子

今回、はじめて建築士会全国大会に参加させていただきました。

大会初日は、郡山市にあるビッグパレットふくしまにて、交流セッションと大会式典に出席しました。東日本大震災以降の福島県における建築士の活動や、防災・減災についての取り組みと今後の課題など、今の福島県の現状を知ることができました。建築士として私たちに出来ることは何か？と改めて考える良い機会となりました。

二日目・三日目は、エキスカージョンGコース「会津街道と紅葉の裏磐梯ゴールドライン・レークラインの旅」に参加しました。

●前沢曲家集落

早朝に郡山を出発し、バスに揺られながら、車窓からの景色を楽しみました。

のどかな田園風景を通り過ぎ、色鮮やかに木々が紅葉している山道へと入っていき、さらにさらに山奥へ行ったところに茅葺屋根の曲家集落がありました。曲家（まがりや）とは、L字型に建てられた民家のことで、南会津町の館岩地域には、この曲家が数多く残っています。

曲家は、人が暮らす家と馬を飼うための「うまや」をひとつにした構造となっており、雪深い地域で暮らす為のさまざまな工夫が施されていました。資料館となっている家の囲炉裏で焼いた、ホクホクのじゃがいもをいただきながら、曲家での暮らしぶ



りを皆で見学しました。



●塔のへつり

紅葉のベストシーズンで、観光客で大賑わいでした。百万年の歳月をかけて浸食と風化を繰り返した見事な岩壁を見ながら、昼食をいただきました。



●大内宿

こちらも週末ということもあって、大変な賑わいでした。

大内宿は、戦国～江戸時代に会津若松と日光今市とを結ぶ下野街道沿いの宿場町として栄えたところです。

宿場町としては、長野県の妻籠宿、奈良井宿に次いで全国3番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されているそうです。

30軒以上ある茅葺屋根の民家を通り過ぎた先で、少し山に登ってみました。

山の上から街並みを見下ろしてみると、まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような、本当に不思議な体験をすることができました。

よくここまで、当時の街並みを保存できたなあと大変驚きました。



●坂下東幼稚園

二日目の最後に、福島県建築士会の方の案内で、県産材を使用して建てられた木造の幼稚園を見学させていただきました。

こちらの幼稚園は、福島の8人の建築士の方が一緒にプロポーザルに参加、設計された建物です。遊戯室や図書スペース・保育スペースなど仕切りがなくとても開放的で、地元の木材の特性を生かした、構造的にもよく考えられた作りとなっていました。



●鶴ヶ城

大河ドラマ「八重の桜」で有名となった白い壁と赤い瓦が特徴的な鶴ヶ城です。

天守閣からは会津盆地を遠くまで望むことができました。

お城の中は、江戸時代の会津の産業や幕末史などの展示がありました。

昭和に再建されたお城ですが、石垣は当時のままのもので、よく見ると見事な巨大な石が積まれています。



●磐梯山ゴールドライン

裏磐梯高原から会津をむすぶ、磐梯山麓を走るドライブコースです。

まさに黄金色に色付いたブナの林をバスの車窓から楽しみました。

バスガイドさんが樹木に詳しい方で、熱く語られていて面白かったです。



●五色沼と磐梯吾妻レークライン

磐梯山は噴火の後、裏磐梯三湖を含めて約300の湖沼群ができたそうです。

磐梯吾妻レークラインの途中で、湖を眺めながら昼食をいただいた後、五色沼の中で最も色合いが美しいといわれる毘沙門沼へ行きました。

毘沙門沼はエメラルドグリーンのような色合いでも美しかったです。

からだにハート模様がある鯉が有名になっているようで、多くの方が鯉を探して写真を撮っていました。



エクスカーションに参加した二日間はお天気に恵まれ、また紅葉がいちばん綺麗な週末に当たり、本当に気持ちの良い、楽しい秋の行楽となりました。訪れた先々では、福島県建築士会の皆様に案内していただき、母とふたりで会津地方の街並みや歴史・自然を満喫することができました。本当にありがとうございました。



第34回建築文化講演会

日 時 平成26年11月8日(土) 14:00～17:00

会 場 岐阜県図書館
(岐阜市宇佐4-2-1 TEL058-275-5111)

講 師 建築家 永山 祐子 氏
演 題 『 建築というきっかけ 』

建築家 永山 祐子

略 歴

1975年 東京生まれ
1998年 昭和女子大学生生活美学科卒業
1998～2002年 青木淳建築計画事務
2002年 有限会社永山祐子建築設計設立

受賞歴

ロレアル賞奨励賞、JCD デザイン賞奨励賞、 AR Awards(UK) 優秀賞(2006)、 ARCHITECTURAL RECORD Award, Design Vanguard2012 など。

作 品

LOUIS VUITTON 京都大丸店、 丘のある家
ANTEPRIMA Singapore ION店、カヤバ珈琲、 SISII PRESSROOM、木屋旅館、豊島横尾館 など。

講演を聴いて

報告者：堀 暁美

11月8日 2時より岐阜県図書館にて建築家永山祐子先生の講演会がありました。

永山先生は人気ブランド ルイヴィトンやアンテプリマの店舗の設計 オフィスビル、美術館 住宅と幅広く活動されて見えます。

日々の生活の中で感動されたり気付かれた事をヒントに様々なアイデアを取り入れた作品を見せていただきました。参加者一人ひとりに新しい刺激をいただけた そんな講演会でした。



『株式会社水生活製作所工場』

見学・研修

日時：平成 26 年 10 月 13 日 (木) 13 時 30 分～15 時

場所：水生活製作所/美山工場

(山県市佐野 310 TEL:0581-52-1126)

参加者：12名(内女性委員6名)



(説明を受けている様子)

工場見学・研修会に参加して

報告者：桂川 麻里

工場見学の前に『(株)水生活製作所』の社長様から会社概要や商品作製の手順等をパンフレットやプロジェクターにて説明して頂きました。

水栓金具等で自社ブランドとして作製している会社は日本では10社(内2社は工場無し)ありますが、岐阜県では全国シェアの40%を作製していて、岐阜にいなながら知りませんでした。地場産業の1つだそうです。

水栓金具は青銅合金の砂型鑄造を行なうそうですが、その砂型さえもその日の温度、湿度等により焼成加減が違い、焼成色度を決め、型から気を使っているのだと驚きました。

その後、加工を行ない、研磨は外部の専門工場にて行なうそうですが、機械ではなく人の手で磨くということで更に驚かされました。

メッキは全自動装置ですが、セットして取り外すのは人の手で、流れ作業なのでとても大変そうでした。メッキ後は組立・検査ですが、検査時も人の手や目で確認し、水中検査でも試行錯誤を重ね、ただの水ではなく石けん水を用い水に入れた時出した後と二重チェックできるようにして、施主に届けてから漏れがないよう

に失敗も次の成功に結び付けるように怠らずに常にいることに頭が下がりました。

水生活製作所さんでは、近年水廻り製品にプラスチック部品が増えているということで、今年の3月に樹脂工場を新設されました。

そちらも見学させて頂きましたが、こちらはほぼ機械化されていましたが、組立や検査は人の手・目にてされているそうです。

帰りには、浄水器メーカーでもある水生活製作所さんが開発されたおぶろの入浴剤とボディーソープの試供品を頂きました。使用しましたが、膝は頑固なかかさなので、試供品ではなくなりましたが、ひじのかさかさがなくなりました。

今回の見学会では、水栓関係は工場生産品は機械でもっと簡単に出来ていると思っていましたが、手作業の工程が多く、今まで二の次にしていたことが申し訳なく思えました。

大変勉強になりましたので、またこういう機会には参加したいと思いました。



(鑄物作業の様子。高温で熱かったです。)



(メッキ製品の説明を受ける。キラキラしてきれいでした。)



第4回女性委員会&新年会

日 時：平成27年1月29日（木）

会 場：ふれあい福寿会館

参加者：9名

11:00～ 会食 美食倶楽部「河むら」
（ふれあい福寿会館14階）

13:00～14:30
第4回女性委員会（和室第1会議室）

14:30～16:00
お茶会 ミニセミナー「和に親しむ」



新年会とミニセミナー「和に親しむ」に参加して

報告者：高野 栄子

今年初めての委員会でした。ふれあい福寿会館14階の眺めのいい和食のお店でお食事しました。お久しぶりの方もみえ、たのしく会食いたしました。

その後 引き続き3階の和室会議室に移動して会議とセミナーを行いました。

女性委員の津川さんに、たくさんの道具をお持ちいただき、和室の会議室があつという間に簡単ですが、本格的な茶室に変わりました。そして茶道のいろはから、わかりやすく説明していただきました。

礼の仕方、道具の名前、座り方、懐紙や茶碗の扱い方など大変勉強になりました。今後、茶席でお茶を頂くときに恥ずかしくない程度には所作を身につけたいとつくづく思いました。津川さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。



第24回

全国女性建築士連絡協議会（東京）

1. 開催日時及び開催場所

平成27年2月27日（金）

於：「東京機械本社会議室」

・全国女性部会長（委員長）会議

11:00～12:30

平成27年2月27日（金）

於：（公社）日本建築学会「建築会館ホール」

・開会式

13:00～13:20

・基調講演

13:20～14:40

・事業報告

14:50～15:10

・活動発表

15:10～15:50

・被災地における現状報告と取り組み

16:10～17:30

平成27年2月28日（土）

於：「建築会館会議室」「東京機械本社会議室」他

・分科会

9:00～11:30

・全体会

11:45～12:30

2. 開催場所

日本建築学会「建築会館ホール」「東京機械本社会議室」他

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20

TEL 03-3456-2061

（公社）日本建築士会連合会事務局

3. テーマ

『未来へつなぐ居住環境づくり～大切にしたい暮らし方～』

4. 分科会について

- ・ A分科会「震災①防災への取組み」
- ・ B分科会「震災②ボランティア活動の報告」
- ・ C分科会「歴史的建造物と建物再生」
- ・ D分科会「素材と環境共生住宅」
- ・ E分科会「景観まちづくり」（高野参加）
- ・ F分科会「子どもと住環境」
- ・ G分科会「高齢社会福祉住宅」（下川参加）
- ・ H分科会「集まって住む」

参加者2名



（建築会館前にて）

平成 26 年度 第 24 回全国女性建築士 連絡協議会に参加して

報告者：高野 栄子

2月27日28日と2日間に渡り、今年度の全建女に参加しました。私は初めての参加でしたが、とても貴重で有意義な体験させていただきありがとうございました。

27日は11時から委員長会議に出席しました。日本中から集まった委員長が一堂に会して各ブロックの運営委員長が各県の活動を簡単に紹介されました。他県での活動の内容は、今後の岐阜での活動にも大変参考になる興味深いものでした。他に来年度の会議日程や再来年度の開催場所について協議されました。

・平成 27 年度 全国女性建築士連絡協議会 平成 27

年 9 月 25 日（金）26 日（土）

東京都 国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催

・平成 28 年度 平成 28 年 7 月 奈良市にて開催予定

参加されたい方はぜひ予定に入れておいてください。

午後からは基調講演や事業報告、活動発表、被災地における現状報告と取り組みの発表がありました。被災地における建築士の取り組みは各県ともその深刻さが伝わり、約4年近くたっても仮設住宅で不自由な暮らしをされている現実を実感しました。

28日は分科会でした。私は始めてなのでE分科会「景観まちづくり」に参加しました。

E分科会では宮崎県日向市のまちづくりと京都の修徳地区のまちづくりが発表されました。

日向市は中心市街地の整備事業に伴う新しい景観を作る活動で、京都の修徳地区は古い町並みを守る活動でしたが、どちらも住民のコミュニティの大切さを語ってみえました。

まだまだ勉強不足でよくわからない私ですが、今回の参加をひとつの知識と経験として大切にしたいと思います。



第24回全国女性連絡協議会に

参加して

報告者：下川 滝美

今回は高野さんと二人で参加させてもらい勉強の機会をいただきありがとうございました。

在宅要高齢者の住まいのあり方に関する調査事業、域高齢者居住環境アセスメント等モデル事業の報告もあり私にとっては興味のある内容でした。

また震災から4年が経とうとしており被災地からも報告や取り込みも当時を思い出しながらお聞きしました。

分科会は、いつものG分科会ですが今年から「高齢社会と福祉住宅」というテーマにかわり事例は「栄村復興住宅聞き取り調査」と「社会福祉資源を活用して、在宅介護～母の社会復帰まで」の二つの発表でした。

「栄村復興住宅聞き取り調査」は3.11の翌日に起きた長野県にある栄村の復興住宅建設の設計業務を長野県建築士会青年女性委員会が行い、仮設住宅から早い段階で復興住宅を建設されたということ、その後1年後にアンケートをとり住い手の方々に使い勝手調査をされた報告の発表です。

設計に携わった者が、住んでいる方の生の声を聞き、それを次の震災の復興住宅建設に役立てるという点などすばらしい活動だと思いました。

年齢や世帯の人数がさまざまな方が住んでいるのでそれぞれの感想があり興味深く、また除雪や野菜の貯蔵など地域性を感じる回答もありました。住み慣れた地域で暮らし続けたいという思いを支える復興住宅の大切さを知りました。

もう一つの事例は交通事故により障がいをもったお子さんを在宅で生活できるようにするための住宅改修です。他職種の会員がいる「手すりの会」が連携をして在宅で福祉機器を導入し生活ができるようになるまでの過程を発表されました。

在宅で高齢者、障がいのある方が生活しつづけるにはいろんな方との連携が必要だということが二つの事例を通してより感じました。

在宅要介護高齢者の住まいあり方に関する調査事業

建築士会連合HPよりダウンロードできます。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2014-09-08.html>



(G分科会の様子)



建築士会

東海北陸ブロック会女性建築士協議会

平成26年度後期定例会議となみ大会

日時：平成27年3月14日(土)～15日(日)

会場：オクス砺波平安閣

(砺波市三島町11-8 電話 0763-336-4522)

テーマ「一結(ゆい)ー建築士・職人・素材・歴史

そして未来へ！」

参加者：4名



(会場入り口前で集合写真)

建築士会 東海北陸ブロック会 青年建築士協議会・女性建築士協議会
平成 26 年度 後期ブロックとなみ大会に参加して

報告者：宇佐美 泉

3月14日北陸新幹線開通初日に、長瀬八州余さん⁹、伊藤麻子さん、井之口洋子さんと富山県砺波市に向かいました。お昼前に砺波市に到着し、道の駅「となみ 野の郷」で名物の大門そうめん定食を食べました。細い麺にもかかわらず、しっかりとこしもありとてもおいしかったです。食事後お土産を買い、開会式の会場へ。

開会式は、オークス砺波平安閣で12:30から始まり、青年協議会及び女性協議会の運営委員長挨拶や、(公社)富山県建築士会会長、日本建築士会連合会会長挨拶等があり、滞りなく終了しました。

13:10から女性協議会が開催されました。これより会議式次第を掲載し、それについての補足説明という形で報告させて戴きます。

[平成 26 年度後期定例 (富山) 会議 会議式次第]

1. 開会の言葉
2. 開催幹事挨拶
富山県女性委員長 中村博子さん
3. 運営委員長挨拶
愛知建築士会 筒井裕子さん
4. 来賓挨拶
5. 出席者紹介
各建築士会の委員長が代表して紹介
6. 議長選出
富山県建築士会 村田明美さん
7. 議事録作成者及び署名者の指名
8. 報告事項

① 各県女性委員会今年度活動報告

前もって提出していた活動報告をパワーポイントで各県が発表、中でも福井県さんの住教育事業の活動が認められて、国より助成金がでることになったとのこと、この活動は注目していきたい。又、三重県さんは、毎月「みけじよ通信」を発行、全会員に「建築士」とともに発送していたが、来年度より女性委員のみに発送。どこの県も活動費は厳しい。

② 連合会女性委員会の報告

③ 東海北陸ブロック会の報告

④ 青年委員会の報告

②～④については、運営委員長から報告を受けました

9. 審議事項

① 平成 26 年度前期定例 (岐阜) 会議議事録承認の件 承認されました

② 運営マニュアル改正の件承認されました

10. 協議事項

① 平成 27 年度前期定例会議の件 (三重県)

開催日：平成 27 年 6 月 20 日 (土)

場 所：三重県伊勢市 日の出旅館

時 間：11:30～(この時間では、富山県さんの到着が難しい為、再度検討)

② 平成 27 年度後期ブロック大会の件 (愛知県)

女性協議会単独での開催 (青年協議会は、静岡県で開催)

開催日：平成 28 年 2 月 20 日 (土)・21 日 (日)

場 所：愛知県名古屋市内

③ 女性建築士協議会運営について

テーマ：未来へつなぐ居住環境づくり～大切にしたい暮らし方～

にしたいと運営委員長より提案

④ その他 特になし

11. 第 58 回建築士会全国大会石川大会について

開催日：平成 27 年 10 月 30 日 (金)

場 所：石川県金沢市 石川県立音楽堂 (JR 金沢駅すぐ南)

詳細は、「建築士 5 月号」に掲載されます
岐阜県は、バスで参加予定

12. 相談役所見

13. 閉会の言葉

以上で女性協議会が終了しました



(協議委員会でのお菓子、砺波でお祝いによく出される上用饅頭です。)



(会議の様子)



(富山県女性委員会では素材の勉強会を継続しておこなっており、今回は和紙についての展示がありました。)

第1・第2分科会が終了し、オークス砺波平安閣「平安」の間で、19:00～懇親会が行われました。

会場の脇の部屋に託児所が設けられ、ボランティアのキッズシッターさんが2名、常時面倒をみてくれました。

青年委員と女性委員が指定されたテーブルに座り、和やかに会が始まりました。

途中に鯛の解体ショーや太鼓のアトラクション等が行われ、とても楽しく又、各県がお土産として持ってみえた酒がふるまわれてますます食事が進みました。あっという間に時間が過ぎ、21:00に懇親会は終了しました。



(懇親会の様子)



(和太鼓や踊りのアトラクション)

となみ大会 第1分科会 報告

報告者：伊藤 麻子



(鰯の解体ショー。写真では手際の良さをお知らせできません、残念です。お刺身は美味しかったです。)

その後、女性協議会のメンバーは、砺波ロイヤルホテルに移動し、チェックイン。筒井運営委員長の呼びかけで、運営委員のみ部屋に集まりました。その中で、静岡県建築士会の若手女性会員から、改めて委員会活動をしたい(ブロック女性協議会に参加したい)という話があるようで、こちらも歓迎したいとのことでした。実現すれば、本来の東海北陸7県での活動ができ、もっと盛り上がるのではと思いました。

第1分科会

テーマ「結(ゆい)」～建築士・職人・素材・歴史そして未来へ！～

(内容) 講演会、空き家活用ワークショップ

第2分科会

(1日目)

テーマ「素材から見える伝統技術と最新技術」

(内容) 新光硝子工業(株)及び入道家 施設見学

(2日目)

テーマ「時をこえ 心酔いしれる空間」

～若鶴大正蔵改修設計～

(内容) 若鶴酒造 施設見学



(第2分科会 入道家前で集合写真)

高山から東海北陸自動車道で金沢に向かう途中、深い山間の道を抜けるとそこに散居村があります。広々とした田園と家々と林のたたずまいが美しく印象的で、いつか訪れたいと願っていたことが今回、叶いました。

やはりここも過疎化が進み、存続の危機を迎えているということで、この特徴を活かした提案づくりのワークショップでした。

始めに講演会で、散居村(集落ではない)の特殊性と歴史を聞きました。

一つの住居単位でエネルギーの自立型循環ができていることが素晴らしい。講師の先生(立川談志似)の語り面白くて、ためになりました。

次は現地見学です。意外にも町中に近いのに、(コンドミニアムとして利用されてはいるけど)空き家なので、閑散とした雰囲気です。じつにもったいない。うまく活用できると、とても素敵な場所になるに違いありません。

そしてワークショップに入ります。同じ県でグループが構成されて、顔なじみの青年委員の人たちと意見を出し合いました。

品格のある古民家、林、アクセスの良さ。これを踏まえて出てきたのは、短期に訪れるよりも、留まって生活を味わってみたいという思いでした。

ほかのメンバーもそれは感じたようで、宿泊施設でも合宿できるとか、農業体験ができるなど、長期滞在型の意見が出ました。私はここで生活する住民のための小規模多機能型施設(デ・イ・ビス、ショートステイができるコミュニケーション施設)を提案しましたが、なかでも「この地域をまるごと職人村にする！」という河本さんのアイデアが出色だったので、これに決定しました。

単体での建物の設計は、今までもこれからも機会があるでしょうが、地域の計画はなかなか関わる事ができないと思います。プロ同志、話し合いやプランニングはわくわくして、本当に楽しい時間でした。(設計の作業で、お金や法律、その他諸々の現実問題が出てくる前の段階はいつもそうですけど。)

内容がだいぶまとまったところで一日目が終了となりました。次の日の発表も好評だったようでした。

他県の提案も気になりつつ、あの美しい散居村が活きた形でずっと続くことを願い、またほかの（地元飛騨でも）同じような危機に瀕している地域の発展も祈り、自分にも何かできることをしようと改めて決意いたしました。



第2分科会に参加して

報告者：井之口 洋子

第2分科会は大会会場から分科会会場までのバス車中にて 砺波の散居村について説明して頂きました。



（バスの中からの写真です。）

まずは最新の技術を見るべく、新光硝子工業株式会社様の工場見学です。

社長自ら御社の硝子製品の強みを紹介して頂き、施工例を営業の方から見せて頂きました。最大の特徴は曲げガラスで強化硝子が出来るということでした。これを使い、今話題の北陸新幹線のフロントガラスもこちらの製品だそうです。

そして、高山の私たちがよく利用する特急ひだ号にもこの技術が生かされているとのことで、とても身近に感じることが出来ました。

このガラスは曲げて、尚且つ強度を持たせるために合わせガラスにするそうですが、1つ作るのに10～12時間かかるとのことで、釜をいくつか使い1日2回は稼働させて生産されているそうです。特に合わせガラスは一度に何枚ものガラスと一緒に曲げるそうで、1枚でも傷がついたり、間違えたものは製品にならないそうです。

実際にガラスを曲げるための型枠や手作業でのガラスカットを見学させて頂きました。

小さいことでも遠慮せず相談してくださいとの社長の言葉をありがたく感じました。



（工場入り口に到着です。）



（食堂で会社の概要等の説明を受けます。）



（商品の説明を受けます。）



(工場内の見学に向かいます。工場内は撮影禁止でした。)



(入道家正面)

そして次の見学に砺波の典型的な散居村の住宅に伺いました。

この住宅は今でも住んでいらっしゃるとのことで、ガイドの尾田さんと御当主の入道さんにお話を聞きました。

散居村には『アズマダチ』と『マエナガレ』が残っているそうで、こちらは『アズマダチ』建築でした。屋根の向きが東向きだから『アズマダチ』と言われるそうです。

ちょうど正面から見るととても大きな屋根で、妻壁が美しいファサードでした。大規模な農家でヒロマが家の中心にありました。

昔は10~30坪程度の家が多かったそうですが、戦後の農地解放で土地を広く使えるようになり、大きな家が増えていったようです。しかし、大きな家を好むには土地柄があったようで、浄土真宗が盛んであったこのあたりはひと月に一度、お講を開く習慣があり、いつしか自分の家でお講を聞きたいと願い、広い座敷を作るようになり、大きくなっていったようです。

それが大阪は食い道楽、京都が着道楽、砺波は住道楽と言われる所以だそうです。

住宅というのは、その土地の風土、習慣に深く根差していて、それがしっかり反映されていると実感しました。」



(住宅についての説明を受ける)



(お庭も広くて立派でした。)



(入道家住宅説明看板)

第2分科会 2日目

若鶴酒造見学に参加して

報告者：長瀬 八州余

二日目はお天気もよく、ホテルよりバスにて、オークス砺波平安閣へ向かいます。

第1分科会に参加する方は降りられ、第2分科会に参加される方が乗られて、若鶴酒造に向かいます。

若鶴酒造の創業150周年と北陸コカ・コーラボトリング株式会社の創立50周年の記念事業として、一番古く、大正11年に建てられた『大正蔵』の改修がおこなわれ、平成25年に改修工事が終わりました。

今は研修棟として使われている『若鶴大正蔵』の見学です。

建物内に入り階段状のフロアの席について、若鶴酒造の方の説明と社長の串田氏の挨拶の後、若鶴酒造の紹介DVDを見て、この大正蔵の改修設計をおこなった金沢工業大学教授 蜂谷俊雄氏の講演を聴き、その後建物の見学をおこないました。

講演のお話は、大学の授業の一環として学生に考えさせながら設計を進め、古い建物であったので今の時代に合うように法的な手続きが大変でした。

酒造りの精神を次世代に継承し、時間軸の中で生きる喜びを実感できる建築に再生することが設計のコンセプトですとのお話でした。

建物内では日本酒の試飲もでき、美味しいお酒をいただきました。

見学を終えて、再度オークス砺波平安閣へ帰り、閉会式に参加して、帰路につきました。

いろいろな所に見学に行き、内容の濃い二日間でした。富山の士会の方にはお世話になりありがとうございました。

注) 昭和37年に、若鶴酒造社長 稲垣小太郎が、北陸3県におけるコカ・コーラの企業化に名乗りを上げ、大正蔵の一室にて北陸コカ・コーラボトリング株式会社を設立。

設計概要

木造切妻造棧瓦葺で、西面の土蔵造り、南面の漆喰大壁、東面のさしかけ造りが特徴。木造トラス構造により、柱の少ない大空間を実現。建築面積は794.16m² (約240坪)。



(大正蔵に到着して。バスの側に杉玉が見えます。)



(社長さんの挨拶)



(講演の様子)



(建物内部見学)



(試飲会場の様子)



(排煙窓が外壁で隠れているので窓があることが全くわかりませんでした。お願いをして動かしていただきました。)



(建物天井)



第14回 気楽にらくだ会

「美濃保育園見学と美濃和紙を学ぶ」

日時：平成27年3月28日(土)

場所：美濃市 美濃和紙の里会館 旧今井家住宅
美濃保育園

参加者：13名(女性委員10名+一般会員3名)

日程：AM10:20 集合
AM10:30～ 美濃和紙の里会館見学、
紙すき体験、昼食
PM13:00～ うだつのあがる町並み
旧今井家住宅見学
PM15:00～ 美濃保育園見学



(美濃和紙の里会館内 和紙のできたおひな様の前で
集合写真)

美濃和紙の里会館見学・

紙すき体験・昼食

報告者：桂川 麻里

美濃和紙の里会館にてまず紙すき体験をしました。コースはいくつかありましたが、1枚500円で所要時間20分の美濃判コース・30分の落水紙コースから各自選んで作成しました。

私は落水紙コースで、色紙をすきこむものとなりました。

担当係の方がスケタ(紙すきの道具)を持ち、すき舟(紙料が入った水槽)に入ると簡単にきれいに、紙

料が流れていましたが、自分ですいてみると思った以上に重く紙料がなかなか均等になりませんでした。

次は先程すいた和紙に金属の網を乗せシャワーで水をかけると、その網目模様が紙についたのが驚きました。

その後、最初に選んでおいた色紙を置きましたが、一発勝負で置かなければならないので、後からもう一度置き直したい気持ちでいっぱいになりました。後の水切りと乾かしは担当の方にお任せして、今度は展示室に見学に行きました。

最初に入った展示室は絵が飾ってありましたが、ぱっと見ると油絵のような感じで何でこんなところにこんな絵がと思いましたが、よく見るとすべて和紙の貼り絵となっていてすごく感動しました。

次の展示室は、和紙作りの工程が分かりやすく人形で紹介されていました。その横には日本中の和紙があり、和紙といっても地域によって厚さ、手触りが違っておもしろかったです。

次は昼食です。館内にある「花みこし」というレストランでお弁当を食べました。暖かい麺がついて、色どりが綺麗でおいしかったです。

帰る時に出来上がった和紙を頂きました。思った以上の出来上がりでしたが、また紙すき体験をしたいと思います。

今回の見学会では、和紙の良さを再確認出来たので、高くはなりますが自分の家の障子を本物の美濃和紙で貼って、色々な人に伝えていけたらと思います。



(作業の様子)



(作品を乾かしているところ。

作品の前ではいポーズ)



(売店コーナーを上から撮ってみました)



(昼食のお弁)

うだつの上る街並み見学

報告者: 飯沼 あい子

昼食後、車で美濃市街地へ移動し始めに旧今井家住宅を見学しました。

ボランティアの古田さんに邸宅の中を案内していただきながら説明を聞きました。

美濃市の歴史や手すき和紙の盛衰の話から始まり、建物の話になりました。

こゝは最も古いうだつ軒飾りの形式を残す江戸末期から昭和初めころまで庄屋を務めた和紙問屋で、今風で言うと和紙問屋組合の筆頭理事のような地位にあり、市内で最大の建坪を誇る名家だったそうです。当時は珍しかった上段造りの座敷から庭の水琴窟（日本の音風景100選にも選ばれたそうです）の優しい音色を聴きながらしばしの時を過ごしました。それにしても室内は寒く、正に「家の作りよは夏をむねとすべし（吉田兼好徒然草より）」を実感しました。

次に、あかりアート館で歴代のコンテスト受賞作品を見学しましたが、街並みに応募作品が展示される時に見てみたいと思いました。ただし、人々だそうですが・・・

その後、街並みを回りながら特にうだつの話をさせていただきました。元々は火災の際の延焼防止のためのものでしたが、次第に富や権力の象徴となり、瓦の組合せや装飾を競って造られたとの事で、上を向いて見比べての街歩きとなりました。

最後にお目当ての町屋を改装した店で休憩をしてから次の見学地へ向かいました。



(水琴窟を聴く。音をお伝えできないのが哀しいです。)



(美濃和紙あかりアート館にて。)



(町並み散策の様子。説明ボランティアさんの来ている上着は和紙で出来ています。)



(今井家内部で説明を受ける)



(休憩した時のメニュー。ボリュームがあり美味しかったです。)

美濃保育園

子育て支援棟を見学して

報告者：上村 志奈

園長の御好意で、『美濃保育園 子育て支援棟』を見学させていただきました。

まず、飛び込んできたのは『おばけの木』と名付けられた8m程ある大木でした。

他にも2本のおばけの木が枝を残したまま柱として使われていました。

園は、1階約210㎡の遊戯室、地階約233㎡の保育室で成り立った建物です。県産材が99%使われ、集材材は一切使用されていません。無垢床や和紙などに囲まれた建物です。

園長の熱意は強く、岐阜県立森林文化アカデミー木造建築講座と共同で木育を考え、地域の方々と協力して、丸太の選別から皮むき・製材まで自分たちで行い、施主の材料支給で工事を依頼しました。工事を請けた大工さんは倒して加工できず、立てた柱にやぐらを組んで加工したそうです。屋根の形も複雑で、棟上げに二週間かかったと伺いました。子供たちは、迫力がある『おばけの木』の枝に登ったりするそうです。

桧 や杉等の無垢のフローリングや木サッシで温かみを感じました。地階の床下にはペレットボイラーからの暖をとって、冬も暖かく快適に過ごしているとの話 もいただきました。風抜けや光の取り込み等細部にわたって考えられていて、夏も快適そうでした。できるだけのりを使いたくないとの園長の希望もあり、地階の床板は厚35mmの板（実無）を掛けの上に置いてあるだけのものでした。冬になると、乾燥して隙間があき、熱を部屋内に取り込み、梅雨時期には膨張して板と板の隙間がなくなるだろうと想像できます。

他にも竹を編んで和紙を貼った（一閑貼）襖や、葉っぱを石膏に型取り、型に高熱のガラスを流し込んで作った窓ガラス、地階の小高いステージ（お昼寝スペース）の床に柿渋を塗った和紙を貼るなど、地域の方々と協力して作ったものがたくさんありました。 あっという間の40分でしたが、非常に勉強になりました。快く見学を受け入れてくださり、感謝の限りです。



（保育園入り口、ボランティアガイドさんが最後まで案内して下さいました。）



（1階遊戯室して 園長先生の説明を聴く。）



（地下1階 広間での見学の様子。）



（子育て支援棟外観）



平成26年度

女性委員会総会

日時:平成27年5月14日(木)

12:00~14:30

会場:中華料理 浜木綿 岐阜県庁前店

(岐阜市藪田南一丁目 13 番 28 号

電話 058-277-8511)

参加者:9名



(会食の様子)

平成26年度

女性委員会総会に出席して

報告者: 森崎 麻充



平成26年度女性委員会の総会が、浜木綿県庁前店にて開催されました。

総会に入る前の、ランチのメニュー選びから会話が弾み、みんなで楽しく料理を味わいました。

その後、宇佐美委員長の司会により、総会の開会です。

平成26年度事業・決算報告に始まり、平成27年度事業・予算計画、例会や研修、見学会に至るまでの多くの議題を、皆で気軽に意見を出し合いながら、審議を重ねました。そして、スムーズな進行により、議事は全て承認され、総会は閉会しました。

総会中に頂いたデザート甘さが、委員の笑顔を増やし、和やかな総会となった気がします。



編集後記

36号をお届けします。

平成26年度後期の報告となっています。

皆様からの投稿はいつでもお待ちしております。また、編集参加、問い合わせ、ご意見・投稿・新企画などがございましたら、下記へお寄せください。

編集委員(長瀬)

公益社団法人 岐阜県建築士会

岐阜市藪田南5丁目14番地12号

岐阜県シンクタンク庁舎4階

TEL 058-215-9361 FAX 058-215-9367

<http://www.gifukenchikushikai.or.jp/>

E メールアドレス kensi578@juno.ocn.ne.jp

※ 女性委員会担当まで宜しくお願い致します



(総会の様子)

